東北地方整備局　災害現地対策本部

H21.9.30 東北地整 No. 103
災害現地対策本部　活動通信

平成20年岩手・宮城内陸地震における河道閉塞（天然ダム）の直轄砂防災害関連緊急事業及び道路の災害復旧支援を迅速かつ円滑に行うため、栗原市役所内に災害現地対策本部を6月20日に設置。

【9月30日17時　災害現地対策本部情報】

1. 被災地へ観光者等の受け入れ進む

・国道398号の復旧工事が進んでいることから、10月1日から規制区間を花山猪ノ沢地内から温湯地内（温湯ゲート）、秋田県境から岳山地内（湯浜ゲート）へ変更し、宮城県側は温湯山荘までと宮城・秋田県境から湯浜温泉まで一般車両が通行可能となります。温湯温泉（温湯山荘）・湯浜温泉（三浦旅館）が10月1日に営業を再開します。

・また、栗原市から秋田県湯沢市の小安峡温泉へ向かう送迎バスについても、10月1日から国道398号の通行規制区間を運行することができるようになりました。

・栗駒耕英地区では、栗駒山の紅葉シーズンを迎える10月に、民間の観光バスを土日祝日5日間限定で受け入れます。復旧工事が進む市道馬場駒ノ湯線等を通行し、復旧状況を理解していただく目的にて栗原市が事前予約を募り、9月28日現在、個人1287名、9団体の申し込みがありました。

2. 畑村洋太郎先生が現地を視察

・9月14日・15日に、著書「失敗学のすすめ」等で有名な工学院大学畑村洋太郎教授が被災地の現状を視察をされました。

3. 第3回　特殊な土砂災害等の警戒避難に関する法制度検討会　開催

・9月16日に国土交通本省において第3回特殊な土砂災害等の警戒避難に関する法制度検討会が開催されました。

・警戒避難態勢の課題や土砂災害防止法の課題と改正の方向性などについて議論がされ、特殊な土砂災害における国の持つ技術を自治体の災害対策と並行的かつ積極的に活用することが合理的であること、国または都道府県が技術的能力を活用して自らの事務として実施することにより、最も信頼性の高い情報を市町村長に提供する仕組みが制度的に整備されることなどについて提言がされました。

4. 災害現地対策本部長の交代について

・10月1日付け人事異動により、災害対策現地本部長として國松地域河川調整官が着任されます。災害現地対策本部設置時から本部長を務めた小関氏は企画部技術開発調整官へ異動されます。第172回災害対策本部(臨時)会議の最後に小関氏へ栗原市長から労いの挨拶がありました。

湯浜温泉　三浦旅館



温湯温泉　温湯山荘



畑村洋太郎氏　現地視察



畑村洋太郎氏　概要説明



災害現地対策本部長　交代
左：小関　現本部長
右：國松　新本部長



小関本部長
佐藤栗原市長と握手

